

平成28年 第3回伊那地域協議会会議録

開催日	平成28年7月28日(木)								
開催時間	開 会	午後6時30分			閉 会	午後8時30分			
開催場所	伊那市創造館 講堂								
委員の出欠  出席26名 欠席13名		委員氏名			委員氏名			委員氏名	
	1	板倉 倫顕	出	16	伊藤 和義	欠	31	岩本 庄平	欠
	2	守屋 武夫	欠	17	西澤 茂也	欠	32	高橋 陽子	出
	3	伊藤 仁	欠	18	藤澤 香澄	欠	33	唐木 由美子	出
	4	久保村 友保	出	19	若林 一雄	欠	34	鈴木 優子	出
	5	白鳥 始	出	20	池上 直樹	出	35	平澤 澄穂	欠
	6	細田 幸一	欠	21	宮下 平治	出	36	武田 登	出
	7	中村 初治	出	22	畑 英城	出	37	平賀 裕子	出
	8	宮下 信一	出	23	中村 繁子	出	38	小林 正	出
	9	中村 隆幸	出	24	小林 旬子	出	39	井口 清吾	出
	10	伊澤 芳人	欠	25	向山 昌江	欠			
	11	有馬 久雄	出	26	中村 良一	出			
	12	酒井 秋雄	欠	27	小池 弥生	出			
	13	林 典男	出	28	増田 良平	出			
	14	米窪 砂男	出	29	細田 勇次	出			
15	平澤 徹	出	30	武田 禎祐	欠				
署名委員	中村 初治			宮下 信一					
条例第10条の規定により出席した者	なし								
市側の出席者	なし								
出席した事務局職員	総務部長 原 武志 地域創造課長 宮原 貴敏 地域振興係長 飯島 勝 地域振興係 橋爪 智美								
議 事	協議事項 (1) 伊那市協働のまちづくり交付金事業(2次募集)について (2) 小グループによる検討								
配布資料	資料 No.1 伊那市協働のまちづくり交付金事業一覧(2次募集分) 資料 No.1-1~6 伊那市協働のまちづくり交付金事業選考シート								

	資料 No. 2 伊那地域協議会グループ編成（案）
	資料 No. 3 伊那地域協議会グループワーク

## 1 開会

久保村副会長により、定刻に開会する。（欠席の報告）

## 2 あいさつ（会長より）

今回は案内のように協働のまちづくり交付金第二次募集についてご意見をいただき、その後グループ別の討議を行っていただく。グループ討議はグループ長等を決めるなど組織づくりをしてもらった後、昨年度残された問題について各グループで準備をすること、あるいは今後の予定について考えていただくわけだが、今日すぐに結論が出る課題ではないので、どういった資料を用意したら良いのか、先進地はどこにあるのか、今後どういったことを研究していけばいいのかといったことを考えていただきたい。

## 3 会議録署名人の指定について

（会長）

会議録署名人に7番 中村 初治委員、8番 宮下 信一委員を指名する。

## 4 協議

（1）伊那市協働のまちづくり交付金事業（2次募集）について

（事務局）

伊那市協働のまちづくり交付金事業（2次募集）について説明。

< 質疑・応答 >

（会長）

6つの事業について説明があったが、意見等があれば出していただきたい。この場で選考をするわけではなく、後日選考委員会を開催するので、本日は選考委員の方以外の方で意見等があれば出していただきたい。

（委員）

資料 No. 1-4 で地域産材であるアカマツの価値が上昇しとあるが、今アカマツは松くい虫により間伐する傾向があり、アカマツの価値の上昇というのはどうかと思う。

（事務局）

アカマツの価値の上昇には疑問だというご意見だが、ヒアリングの中で確認するとともに現状も担当課に確認したい。

（委員）

資料 No. 1-1 だが構成員が区長会・伊那北小・PTA とあるが、これらのそれぞれの団体はこの事業について理解し了解しているのか。

(事務局)

計画書を出していただくときに添付資料があり、区長会・伊那北小学校・PTA で協議会を構成していて、この事業については了承済みと伺っている。

(委員)

代表者はどういう立場の方か教えてほしい。また、主体になるのはどこになるのか。あくまでも代表者個人が主体なのか。

(委員)

代表者の方は竜東北部 6 区、上牧、野底、若宮、美原、前原、福島、仙美常会の区長会長である。

(委員)

立ち上げるのは良いのだが、今後何年も活動を継続充実させていくことが一番大事だと思う。こういうケースは往々にして結局最後は学校が抱えたり、教職員が苦勞されるケースがあり、そういった点が懸念される。

(会長)

ここで結論を出すわけではないので、意見としてお聞きし選考会で検討する。

(委員)

資料 No. 1-4 だが、事業内容では参加者を 100 名と見込んでいるが、事業収入では参加費を 50 名で見込んでいる。この違いはどういうことか。

(委員)

大人の方から参加費をいただいて、子どもは無料として計画している。

(会長)

選考委員会ではもう少し詳しく選考して絞っていく。

(委員)

例えば資料 No. 1-4 の計画は社会福祉協議会でも申請できそうな補助金であるが、そういった場合は重複して補助を受けられるのか。

(事務局)

協働のまちづくり交付金は市の他の補助事業があった場合でも活用できると位置付け

ている。ただし、特定の財源が確保できる見込みがあれば収入に見込んでいただいて、その分については交付金からは落とすという考え方になる。

(委員)

重複して申請できるということか。

(事務局)

例えば社会福祉協議会からの支援を受けることができるということであれば、協働のまちづくり交付金ではその補助金を財源として見込んでいただき、交付から差し引くことになる。

(委員)

資料 No. 1-2 のトイレの整備だが、ランニングコストは上牧区民が払うという理解でいいか。

(事務局)

選考委員会において各団体にヒアリングを受けていただくので、疑問点について意見を出していただければ、ヒアリングで確認をしていく。

(委員)

資料 No. 1-6 については、一度区民手帳を配付してしまえば、継続や後の活用につながっていかないと思うがこういったものも対象となると考えてよいのか。

(事務局)

ヒアリングのときに、今後も継続して活用していけるのかどうか確認して審査をしたいと思う。

(委員)

資料 No. 1-6 の事業が審査で採択となれば、他の団体からも同じような事業の申請が多く出てくると思う。

(委員)

事業の中で、県の元気づくり支援金の主旨にそっているようなものもあると思うがその辺りの線引きはどのようにするのか。

(事務局)

基本的に協働のまちづくり交付金については、伊那地域の活性化につながっていくような事業と考えている。1次募集でも申請のあった広域的な事業については、県の元気づくり支援金の方が適正ではないかという助言をする中で、採択・不採択という判断をしてきた。協働のまちづくり交付金を申請してはいけないということではないので、申請があっ

たものは受け付けて選考委員会で判断をしていく。

(委員)

資料 No. 1-6 の事業が交付決定されるとしたら、他の区でも同じようなものを作りたいということになると思う。野底区が先駆的にやってみようという思惑で申請したのか。過去には個人名と電話番号を記載した一覧が配付されたが、最近は個人情報保護ということで隣組であっても電話番号など全くわからない。そういう中でこういうものを作って良いものか。また、構成員が 15 名とあるが、どういった方で構成されているのか。役員で構成されているのか。手帳は毎年作成するのか。

(会長)

ただいまの意見はご意見ということで承って、選考委員会で確認していく。

(委員)

伊那地域協議会以外の協議会での交付決定内容を資料で提示いただきたい。また、今回は事業の内容として設備的な要素が多い気がする。見積もり等裏付ける資料があれば、選考委員会までをお願いしたい。

(委員)

対象外事業として単に施設・設備の充実を目的とした事業となっているが、トイレやパソコンはそういったものに該当するのではないかと思う。その辺りも加味して選考してほしい。

(会長)

協議会で出された意見を加味して、選考会で審査を行いたい。

(2) 小グループによる検討について

(事務局)

小グループによる検討について説明。

<グループによる検討>

<グループによる検討結果発表>

(グループ 1) 「自治会と行政の事業年度の統一について」

「自治会と行政の事業年度の統一について」をテーマに取り組むことになった。現状は市が4月1日から、区が1月1日からで、この違いが様々な問題を起こしている。今回は、何が問題なのかという点を重点的に話を進めてきた。例えば申請をする場合、1月に新しい区長が申請をすると、市は行政年度が4月からであるため予算がなく断られたり、また、地区の役員の方が4月1日からの役員と重複しているので、非常にやりづらいところがあるという意見があり、デメリットの方が多いのではないかという意見が出された。これからの進め方としては、数年前に同じ課題について取り組んだことがあるのでその時の状況を知りたい。また、事業年度を変更している自治体、駒ヶ根市や南箕輪村等にも聞き取りをしていきたい。

#### (グループ2) 「自治会への加入促進について」

「自治会の加入促進について」というテーマで、グループメンバーの4つの区の現状を報告いただき、その中で何が課題・問題であるかということについて話し合った。一つは、今問題になっている高齢化に伴い、一人暮らしや年金暮らしで区費が支払えない方が増えている。減免規定がある区はよいが、規定のない区については脱退したいという声もある。また、区の役員選出についても受け手がないという現状がある。新たに家を建てた方についても、理解をしていただいている方もいれば拒否されている方もいる。特に課題となるのがアパートの入居者で、どの区においても加入率が低く、区費等についてはオーナーに負担していただいているところもある。こういった点が大きな課題であると考えている。また、昨年度市で作成した「地域の教科書」を市のホームページへ掲載したり、転入してきた方が区の状況について知ることができるよう資料として配付したりしているが、その状況を聞かせてもらえれば参考になると思う。区でも独自の案内資料を作り、加入していただくよう説明しているところもある。各区の実態がわかるような資料を基にさらに検討を深めていきたい。

#### (グループ3) 「竜東北部における公共施設の建設要望について」

「竜東北部における公共施設の建設要望について」というテーマで話し合った。今までの経過についてであるが竜東北部地区には学校や保育園や焼却場以外に公共施設がなく、具体的に体育館がほしいという要望が出ていたことを確認した。そこで本当に体育館が必要なのかという点についてメンバーと協議した結果、現実的にはそんなに困っていないのではないかという意見が大半をしめた。今後については、高齢者や一般の方が集える場所、コミュニティの場所があってもいいのではないかという意見も出た。施設を整備しても実際にしっかりした活用ができるかは疑問であるという意見も出た。最終的に改めて北部6区一常会の区長会長に再度どんな施設が必要なのかを確認し、それに基づいて次回どういう形が好ましいのか方向づけをしていきたい。

#### (グループ4) 「中心市街地活性化について」

「中心市街地活性化について」というテーマで話し合った。そもそも中心商店街とはどこなのかというところから話を始めた。学区でいうと伊那小、伊那西、伊那東、伊那北と

いろいろな学区のなかでそれぞれ商店街があるかと思うが、今回については通り町の商店街を中心に話を進めていこうということになった。それぞれの立場から課題等を出していただいたが、最終的にこのグループのキーワードについては、子ども達と中心市街地のつながりを考えて一つ一つ課題を解決していくと何か見えてくるのではないかという結論であった。駅前などの市街地については、隣の駒ヶ根市がかなり進んでいるという情報もあるので、グループとして視察をしたいと思っている。事務局へお願いだが、時間が少ないのでもう少し時間に余裕のある会議内容としてほしい。

(事務局)

事務局へ、情報の収集あるいは会議の運営方法等ご意見いただいたので、今後の参考とさせていただきます。また、必要な情報については提供していくのでご連絡をいただきたい。

(会長)

次回以降も全体での協議に係る事項以外は、グループで検討を進めていく。短時間では行き着かないので、よろしく願いしたい。協働のまちづくり交付金についても多くの委員の方から様々な視点で意見が出た。今後行われる選考委員会で鋭意検討していく。グループ検討についても時間が足りないという意見が出た。次回以降もグループ検討が続くので、よろしく願いしたい。

## 6 閉会

(副会長)

長時間にわたって熱心に討議いただきありがとうございます。以上をもって、第3回伊那地域協議会を閉会とする。

本会議に会議録を作成し、会長及び会議録署名人において下記のとおり署名する。

平成28年7月28日

平成28年度 第3回伊那地域協議会 会議録

会 長 .....

会議録署名人 .....

会議録署名人 .....